

平成 28 年度 事業報告書

一般財団法人日本自動車研究所

目 次

1. 法人の概況	1
1.1 設立年月日	1
1.2 定款に定める目的.....	1
1.3 定款に定める事業.....	1
1.4 賛助会員に関する事項.....	1
1.5 主たる事務所、従たる事務所の状況	1
1.6 評議員、役員等に関する事項.....	2
1.7 職員等に関する事項	2
1.8 評議員会、理事会に関する事項	2
2. 事業の状況	2
2.1 研究事業（基礎研究、総合研究、研究・試験事業）	2
2.1.1 FC・EV分野.....	3
(1) 基礎研究（実施事業）	3
(2) 総合研究（実施事業）	3
(3) 研究・試験事業（その他事業）	3
2.1.2 環境・エネルギー分野.....	3
(1) 基礎研究（実施事業）	3
(2) 総合研究（実施事業）	4
(3) 研究・試験事業（その他事業）	4
2.1.3 安全分野.....	4
(1) 基礎研究（実施事業）	4
(2) 総合研究（実施事業）	5
(3) 研究・試験事業（その他事業）	5
2.1.4 自動運転・IT・エレクトロニクス分野.....	6
(1) 基礎研究（実施事業）	6
(2) 総合研究（実施事業）	6
(3) 研究・試験事業（その他事業）	6
2.1.5 生活支援ロボット分野	6
(1) 総合研究（実施事業）	6

(2) 研究・試験事業（その他事業）	7
2.2 施設・設備の運用事業.....	7
2.3 認証事業（審査および登録事業）	7
2.4 JNX 事業.....	7
2.5 法人運営およびその他の活動.....	8
2.6 重要な契約等に関する事項	8
(1) 重要な委託契約等	8
(2) 重要な設備投資等	9
(3) 重要な資産の除却.....	9
(4) 諸外国の政府機関及びそれに準ずる機関との契約及び覚書	9
(5) 国内外の訴訟に関する事項.....	9
2.7 正味財産増減の状況および財産の増減の推移	10

1. 法人の概況

1.1 設立年月日

昭和 36（1961）年 4 月 7 日

1.2 定款に定める目的

この法人は、自動車に関する研究を通じて、自動車及び関連分野の総合的、長期的技術の向上を図るとともに、エネルギー資源の適正な利用の増進に資し、もって産業の健全な発展と国民生活の向上に貢献することを目的とする。

1.3 定款に定める事業

この法人は、定款に定める目的を達成するため、自動車および関連分野に関する次の事業を行う。

- (1) 基礎的な調査、研究及び技術開発
 - (2) 環境、エネルギー、安全及び情報・電子技術の調査、研究及び技術開発
 - (3) 標準化の推進及び基準の設定への協力
 - (4) 試験及び評価
 - (5) 技術協力、技術指導及び人材育成
 - (6) 情報の収集及び成果の普及・啓発
 - (7) 所要施設・設備の運用
 - (8) 国内外の規格に基づくマネジメントシステムの審査及び登録
 - (9) 電子商取引のための共通のネットワークシステムの提供
 - (10) 前各号に掲げるもののほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
- これらの事業は、国内又は海外において行うものとする。

1.4 賛助会員に関する事項

(平成 29 年 3 月 31 日現在)

区 分	賛助会員数	平成 28 年度当初比
財団運営維持	117	-3
一 般	110	+3
団 体	12	±0
合 計	239	±0

1.5 主たる事務所、従たる事務所の状況

主たる事務所：東京都港区芝大門一丁目 1 番 30 号

従たる事務所：茨城県つくば市大字苧間 2530 番地

茨城県東茨城郡城里町大字小坂字高辺多 1328 番 23

1.6 評議員、役員等に関する事項

平成 28 年度期末における評議員、役員等は、附属明細書「1.1 評議員名簿」、「1.2 役員等名簿」、「1.3 顧問名簿」に示すとおりである。

1.7 職員等に関する事項

平成 28 年度期末における職員数は 346 名（平成 27 年度末比 +1 名）である。また、平成 28 年度の組織体制は、附属明細書「1.4 組織図」に示すとおりである。

1.8 評議員会、理事会に関する事項

平成 28 年度に開催した評議員会、理事会およびその議事は、附属明細書「1.5 評議員会、理事会の議事一覧」に示すとおりである。

2. 事業の状況

2.1 研究事業（基礎研究、総合研究、研究・試験事業）

研究事業は、「基礎研究（実施事業）」、「総合研究（実施事業）」、「研究・試験事業（その他事業）」の 3 つに分類される。

「基礎研究（実施事業）」は自主的な研究を指しており、JARI の研究能力のレベルを維持・向上するための先行投資である。この「基礎研究（実施事業）」は、「研究と経営の両立」の一翼を担う重要な位置づけにあり、中長期的な技術動向や社会動向を見据えた研究テーマを選定して実施した。

「総合研究（実施事業）」は、公益的な事業のうち、官公庁等からの受託事業や補助事業として行うものであり、産官学連携による大型の研究開発事業を含む。昨年度から継続する事業を確実に実施するほか、官公庁等の新たな公募情報を注視し、積極的に提案・応募した。特に、国内外の標準化・基準化・試験法策定に関する研究・調査を中心に、JARI の知見と技術で社会に貢献できる事業や、JARI の研究能力の向上につながる事業に重点的に取り組んだ。

「基礎研究（実施事業）」および「総合研究（実施事業）」の成果は、諸学会の講演会や論文のほか、ホームページ、セミナー、展示会、研究所一般公開等を通じて、広く一般に公開した。

「研究・試験事業（その他事業）」は、上述の公益的な「基礎研究（実施事業）」および「総合研究（実施事業）」を除く全ての研究・試験事業であり、「基礎研究（実施事業）」および「総合研究（実施事業）」で蓄積してきた技術・知見を活用して、業界団体や一般企業の期待に応える研究事業、試験事業を実施し、JARI の安定経営に必要な収益の確保を目指した。

平成 28 年度に実施した研究事業は、附属明細書「2.1 平成 28 年度研究事業一覧」に示すとおりである。また、学会等における研究成果の発表実績は、附属明細書「2.2 平成 28 年度所外発表論文等一覧」に、学会活動等に関する表彰の受賞者は附属明細書「2.3 平成 28 年度学会等表彰の受賞者一覧」に示すとおりである。

また、平成 28 年度の産業財産権の登録状況は、附属明細書「2.4 平成 28 年度産業財産権登録一覧」に示すとおりである。

2.1.1 FC・EV 分野

(1) 基礎研究（実施事業）

燃料電池自動車に水素を安全、かつより速く充填するための開発支援ツールとして、充填時における容器内の水素ガス流動に関わる数値シミュレーションモデルを開発した。また、燃料電池自動車等の安全性評価試験設備（Hy-SEF）内で実施する爆発試験の信頼性向上のために、各種の爆風センサーや計測器に関わる評価を行い、より精度の高い爆風計測が可能となる手法を導いた。さらに、燃料電池用電極触媒の電気化学反応と構造変化を同時に評価可能な技術の構築に取り組んだ。

蓄電池に関しては、温度可変環境下での電極反応その場測定手法を構築し、温度環境や電流密度がリチウムイオン電池の劣化に及ぼす影響の解析を進めた。

(2) 総合研究（実施事業）

車載蓄電池並びに電動車両等に関する安全性評価試験法や性能評価試験法の開発に資するデータを収集し、それらに基づく国際標準化活動を推進した。燃料電池自動車に関しては、事故や火災での安全な後処理に資するデータの取得、自動車用圧縮水素容器に関する国内基準の適正化議論や国際基準調和活動などを推進した。特に、圧縮水素容器に関する水素適合性試験法作成のため、高度な技術が必要な高圧水素ガス中での材料試験データの取得を開始した。燃料電池に関しては、膜/電極接合体(MEA)の性能、耐久性の評価法を策定するとともに新規材料の評価を実施した。また、水素燃料中の不純物が燃料電池の発電性能に及ぼす影響を把握し、燃料電池自動車用水素の品質規格の議論に必要なデータを蓄積した。

(3) 研究・試験事業（その他事業）

水素・燃料電池自動車等の安全評価試験設備（Hy-SEF）において、高圧容器や容器附属品の水素充填試験や破裂試験などの安全性評価試験、水素燃料電池自動車やリチウムイオン電池を搭載する電動車両の各種火災試験を実施し、安全な電動車両の開発に資する研究に取り組んだ。また、ECE R100-02（蓄電池の安全基準）に関連したリチウムイオン電池等の耐火試験等を推進した。

さらに、電動車両、電動パワートレイン、および蓄電池の性能評価試験を実施し、電動車両の開発や性能向上に資するデータを提供した。

2.1.2 環境・エネルギー分野

(1) 基礎研究（実施事業）

世界的に注目が集まっているリアルワールドにおける排出ガス低減に向けて、車載型排出ガス分析計を用いた計測技術や評価方法に関する知見を取得するとともに、

ディーゼル車の使用過程触媒の劣化性能予測モデルの基礎検討を行った。PM2.5等の大気環境改善に関して、二次粒子の生成メカニズム解明や自動車からの影響明確化に取り組んだ。また、重量車のエンジン油性能向上に資する調査研究として、JASO エンジン油規格を中心としたエンジン油の清浄性能評価および耐摩耗性能評価に取り組んだ。

(2) 総合研究（実施事業）

乗用車の排出ガス・燃費試験法、エアコン燃費試験法、タイヤ騒音等の検討成果および二輪車の排出ガス試験法の検討結果を国内や国連での基準化活動に活用し、国際基準調和会議における日本提案に貢献した。リアルワールドにおける燃費向上に関して、実際の走行時における様々な状況の燃費を測定して変動要因を解析するとともに、運転方法による燃費向上効果を検討した。

(3) 研究・試験事業（その他事業）

大型車・小型車・二輪車、ハイブリッド車・電気自動車などの次世代自動車、および自動車用や建設機械用のエンジンシステム等の排出ガスや燃費等を評価した。自動車の更なる燃費の向上や排出ガスの低減に向けて、内燃機関の共通課題研究に取り組むために「自動車用内燃機関技術研究組合（AICE）」に参画し、排出ガス後処理技術に関する研究を実施した。また、海外車両のベンチマーク試験をコンソーシアム形式で実施し、エネルギーフロー評価などを行った。

自動車排出ガスが大気環境へ及ぼす影響を明らかにするため、PM2.5に関する二次粒子生成メカニズムの解明やシミュレーション精度の向上を進めた。

2.1.3 安全分野

(1) 基礎研究（実施事業）

予防安全の分野では、自動運転におけるヒューマンファクタ研究として、自動運転システムの機能喪失や性能限界などにより、ドライバへの運転操作の引継ぎが必要になったケースを想定して、円滑な引き継ぎに方策に関する研究を運転シミュレータを用いて実施した。また、運転者の機能疾患が事故発生におよぼす影響の研究として、緑内障における視野欠損のタイプと歩行者見落とし場面との関係を運転シミュレータを用いて評価し、運転支援方策として歩行者の存在情報提供の効果等を検討した。さらに、将来の自動運転車の評価試験方法の開発に向け、大学との連携などによる準備研究を開始した。

衝突安全の分野では、追突時の頸部傷害について、国内外の研究機関との連携により、縦型オープン MRI データを用いた自動車着座時の姿勢の調査を継続し、男女による脊椎の湾曲状態の特徴を明らかにするとともに、湾曲状態の違いが後突時の頸椎挙動に及ぼす影響について人体有限要素モデルを用いて明らかにした。また、機械学習を利用して、衝突解析用人体モデルの骨格を効率的に構築するための手法

の開発に着手した。

(2) 総合研究（実施事業）

予防安全の分野では、近年、自動車アセスメント事業において、予防安全装置の評価試験法が順次導入されており、これに対応する試験を行っている。対車両衝突被害軽減ブレーキ（AEBS）、車線逸脱警報（LDWS）、車両周辺視界情報提供装置の評価に加え、平成 28 年度からは対歩行者 AEBS 試験を開始した。また、平成 29 年度からの車線逸脱抑制装置の評価に向けて、試験方法・評価方法の調査事業を実施した。

自動運転・運転支援関係では、システムの開発過程で必要となる運転者の回避行動のモデル化研究を継続し、対向車線が渋滞している際の歩行者飛び出しや、交差点右折時に対向車が出現したシーンについて、回避行動の分析を行った。あわせて、自動運転システムの事故低減効果評価をコンピュータ上で実行可能にすることを目指し、先行車への追従シーンや横断歩行者に遭遇するシーンを再現するためのシミュレーションプログラムを開発した。また、最近では、自動運転システムの研究・開発に係わる試験ニーズが高まっていることから、従来の模擬市街路をベースに特環境実験場、V2X 市街地、多目的市街地の 3 つエリアから構成される自動運転評価拠点：Jtown を新設した。

衝突安全の分野では、歩行者保護に関して、SUV 等の高フード車に対する脚部保護性能評価に向けた新たなインパクトを開発し、学会発表と並行して、国際標準化を目指して ISO 会議等での関係国との調整を行っている。また、自動車アセスメントの衝突安全総合評価の見直しが検討されている中で、拠り所となる事故データ分析を開始した。

(3) 研究・試験事業（その他事業）

予防安全の分野については、運転支援装置の試験ニーズが高まっており、AEBS や LDWS 等の試験が増加している。また、自動運転・運転支援関係で、大型車ドライバに対する権限委譲や、危険シーンにおける警報の評価等を実施した。

衝突安全の分野では、車体構造の変化（高剛性、重量増）等を反映した試験法の改訂作業や、生体忠実度を向上させた新規ダミーの導入が実施されており、インパクトバイオの知見を活かしつつ、各種衝突形態の試験を実施した。さらに、豪州や ASEAN 地域で販売される車両について、それぞれの地域の NCAP の予備試験および公式試験を実施した。

2.1.4 自動運転・IT・エレクトロニクス分野

(1) 基礎研究（実施事業）

2020年東京オリンピックを一里塚として、高度運転支援や自動運転、ビッグデータ、AI(人工知能)の活用等が自動車の新しい価値として注目されている。電機・通信産業など多岐にわたる分野との連携によるITSの活用推進に向けて、5G(第5世代移動通信規格)といったICT技術、スマートフォン、WEBなどのCE(Consumer Electronics)技術や市場動向を調査するとともに、自動車分野への適用可能性や影響・課題の分析などを行い、関係者間の共同意識の醸成に取り組んだ。

(2) 総合研究（実施事業）

政府の成長戦略に沿って、平成26年度から自動走行技術の研究・実証事業が大規模展開された。JARIは、企業や大学との共同研究体制を構築して、自動パーキングシステムの社会実証、運転行動データ収集および分析、革新的センサ、自動運転システム安全設計、走行映像データの利活用技術、セキュリティ技術、事故低減効果シミュレーション技術等の研究・実証事業7件を実施した。

また、国際標準化事業として、自動車やIT・エレクトロニクス分野における我が国の高い技術力を海外市場に展開するための基盤整備を目指し、ISO国際標準原案の開発や提案活動を実施した。

(3) 研究・試験事業（その他事業）

平成23年に自動車の機能安全(ISO 26262)が国際規格化されたことを受けて、規格の解釈に関する関連企業28社との共同研究活動や、技術者教育・コンサルティング事業に取り組んできた。また、教育・コンサルティング事業については、これまでの取組みやセミナー等を通じた広報活動によってJARIの認知度が向上し、引き合い件数の増加や事業の拡大に繋がった。

また、新たに自動走行関連の技術調査における個別企業ニーズにも対応し、自動走行技術の社会受容性確立に貢献した。

2.1.5 生活支援ロボット分野

(1) 総合研究（実施事業）

自動車分野で蓄積した安全性評価の知見を活用して、ロボット技術を応用した介護機器の実用化促進のための安全性評価手法の標準化に関する研究を実施した。メーカ試作機の実証試験に先立つ安全性評価の実施、介護現場でのデータ収集、生活支援ロボット安全検証センターでの再現実験により、世界に先駆けた安全検証手法開発を行った。

(2) 研究・試験事業（その他事業）

将来の本格的なロボット安全評価コンサルタント事業、および安全アセスメント事業を目指して、生活支援ロボット安全検証センターを利用した受託事業を実施した。受託事業を通じて、目的や機能が異なるロボット関連製品を評価するために、リスクアセスメントおよび安全検証計画作成の支援、複数の試験規格を組み合わせた試験実施など、多様な安全評価サービスを提供するノウハウを取得した。また、介護分野での事業を目指して、同分野の機関との間で委員会活動等の連携を実施した。

2.2 施設・設備の運用事業

貸出調整のための体制を見直し、キャンセル対応、夜間利用の推進、365日稼働、貸出条件の緩和等の改善を図った。その結果、産業界からのコース利用要望に広く応えることができ、コース外部利用額は昨年度比で23%増となった。

さらに、被害軽減ブレーキ等の新たな試験ニーズ拡大に確実に応えるために、新たに第2総合試験路を建設した。

テストコースの貸出し利用状況は、附属明細書「3.1 平成28年度テストコース外部利用者使用状況」に示すとおりである。

2.3 認証事業（審査および登録事業）

EV/PHEV用普通充電器の製品認証では、海外製電気自動車の日本進出増加の動きに伴い、海外充電器メーカーに日本進出のためのJARI認証取得の動きが出始め、海外工場での認証手順を整備し、審査受注に繋げた。また、充電時間短縮を目的とした充電器の高出力化の動きも顕在化しており、既設充電器の入替え需要による追加認証の準備を開始した。

マネジメントシステム認証では、ISO9001、ISO14001の2015年版移行のJAB認定審査が平成27年12月に始まり、事務所審査、現地立会い審査を経て、平成29年2月に無事移行を完了した。登録組織に対しては、全国5箇所での交流セミナーや個別研修会の実施等を通して2015年版の規格解釈、内部監査員育成をサポートし、約12%の組織が移行を完了した。全ての登録組織が無事移行を完了できるよう情報発信や支援活動を継続していく。

2.4 JNX 事業

JNX利用会社数は、堅調な伸びを続けており、利用回線に関しても回線速度の高速化が進んできている。

2016年度は、JNXサービスの現状を調査し、課題の把握・分析、今後のサービス改善の施策を検討するため、一般社団法人日本自動車工業会（JAMA）、一般社団法人日本自動車部品工業会（JAPIA）と連携して、JNX利用実態調査および顧客満

足度調査を実施した。顧客満足度調査結果は概ね良好であったが、一部のサービスの認知度が低いというものであった。また、利用実態調査結果では、JNX とインターネットとの差別化／共存のあり方、セキュリティ優位性の確保について引き続き検討していく必要性が示された。他方、JNX サービス基盤の強化施策として、通信の暗号強化と災害時バックアップシステムの構築に取り組んだ。通信の暗号強化は、4年計画の3年目にあたり、IPSec 機器の全数更新を完了した。次年度にアルゴリズム変更を実施して完了予定である。災害時バックアップシステムの再構築は、計画通り完了し、提供を開始した。

2.5 法人運営およびその他の活動

「非営利性が徹底された一般財団法人」として、法令および定款を遵守した運営を行った。また、経営基盤の安定化に向けては、全所横断的なタスクフォースを中心とした営業拡大活動とコスト削減活動、固定資産取得に対する投資回収性の精査の徹底、部署単位での業務の効率化に向けた取り組みを継続して推進した。

広報活動においては、ホームページ、刊行物などにより事業成果を積極的に発信した。平成 28 年度に刊行した技術刊行物は附属明細書「4.1 平成 28 年度技術刊行物一覧」に示すとおりである。また、平成 28 年度の蔵書、資料保有状況は附属明細書「4.2 平成 28 年度蔵書、資料保有状況」に示すとおりである。

JARI の研究・事業についてより一層理解していただくため、昨年に引き続き研究・事業報告会を平成 28 年 7 月に開催した。環境・エネルギー、安全、自動運転・IT・エレクトロニクス応用などにおける研究成果や事業活動の報告を行った。

また、平成 28 年 11 月に、第 5 回アジア自動車研究所サミットをマレーシア側事務局と連携して開催した。5ヶ国の 7 研究所が参加し、環境と安全の 2 セッションに分かれて議事を進行。アジア各国のトレンドなどについて、全 37 の報告が実施され、専門家間で活発な意見交換が行われた。その結果、各研究所の相互理解が深まるとともに、継続開催の必要性が再確認された。

2.6 重要な契約等に関する事項

平成 28 年度の重要な委託契約等（3 億円超）および重要な設備投資等（5,000 万円超）に関する事項は、以下のとおりである。

(1) 重要な委託契約等

- ・画像等情報呈示装置による視界情報の呈示方法および視界への影響研究 ほか
(相手先：一般社団法人日本自動車工業会)
- ・平成 28 年度自動走行システム評価拠点整備事業
(相手先：経済産業省)
- ・一般車両による自動バレーパーキングシステムの社会実装に向けた実証
(相手先：経済産業省)

- ・ 車載用リチウムイオン電池の試験評価法の開発
(相手先：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構)

(2) 重要な設備投資等

- ・ 自動走行システム評価拠点
- ・ エンジンダイナモベンチ

上記の設備投資を含めた平成 28 度の主要な設備導入および工事等は、附属明細書「4.3 平成 28 年度主要な研究設備、機器の導入、更新一覧」および「4.4 平成 28 年度主要な工事等整備一覧」に示すとおりである。

(3) 重要な資産の除却

◇所員宿舎

(4) 諸外国の政府機関及びそれに準ずる機関との契約及び覚書

◇該当なし

(5) 国内外の訴訟に関する事項

◇遺伝子組換え実験用マウスの件（継続）

- ・ 提訴日 平成 27 年 9 月 16 日
- ・ 原告 一般財団法人日本自動車研究所
- ・ 被告 日本エスエルシー株式会社（実験動物販売業者）
- ・ 内容 平成 24 年度より実施している一般社団法人自動車工業会からの委託研究「ディーゼル排気曝露が虚血性心疾患に及ぼす影響とそのメカニズム調査」において、実験用マウスを被告より購入し研究を進めていたところ、本来は存在しないはずの遺伝子が当該実験用マウスに混入されていることが確認された。これにより、実験のやり直しを余儀なくされたことに対する賠償を求めたもの。

2.7 正味財産増減の状況および財産の増減の推移

平成 28 年度の当期経常増減額および正味財産期末残高は下記のとおりである。

(単位：百万円)

	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
当期経常増減額	△363	△316	△108	△217
正味財産期末残高	19,067	18,672	18,505	18,373

附属明細書

附属明細書 目次

1.1	評議員名簿.....	13
1.2	役員等名簿.....	14
1.3	顧問名簿.....	15
1.4	組織図.....	16
1.5	評議員会、理事会の議事一覧.....	17
	（1）評議員会.....	17
	（2）理事会.....	17
	（3）書面理事会.....	18
2.1	平成 28 年度研究事業一覧.....	20
2.2	平成 28 年度所外発表論文等一覧.....	22
2.3	平成 28 年度 学会等表彰の受賞者一覧.....	34
2.4	平成 28 年度 産業財産権登録一覧.....	34
3.1	平成 28 年度テストコース外部利用者使用状況.....	35
4.1	平成 28 年度技術刊行物一覧.....	36
4.2	平成 28 年度蔵書、資料保有状況.....	36
4.3	平成 28 年度主要な研究設備、機器の導入、更新一覧.....	37
4.4	平成 28 年度主要な工事等整備一覧.....	37

1.1 評議員名簿

評議員：15人

(平成29年3月31日現在)

評議員会 会長	岡 本 一 雄	(公社)自動車技術会 元会長 (日野自動車(株) 相談役)
評議員会 副会長	永 塚 誠 一	(一社)日本自動車工業会 副会長・専務理事
評議員会 副会長	大 聖 泰 弘	早稲田大学 教授
評議員	伊 勢 清 貴	トヨタ自動車(株) 専務役員
〃	可 知 浩 幸	本田技術工業(株) 執行役員
〃	久 村 春 芳	日産自動車(株) フェロー
〃	安 達 竹 美	(株)東芝 執行役常務
〃	五十嵐 仁 一	JX エネルギー(株) 取締役 常務執行役員
〃	大 沼 邦 彦	日立オートモティブシステムズ(株) 取締役会議長
〃	木 下 学	日本電気(株) 執行役員副社長
〃	玉 村 和 己	日本発条(株) 代表取締役社長
〃	山 中 康 司	(株)デンソー 取締役副社長
〃	金 山 敏 彦	国立研究開発法人産業技術総合研究所 副理事長
〃	熊 谷 則 道	(公財)鉄道総合技術研究所 理事長
〃	桑 原 雅 夫	東北大学大学院 教授

1.2 役員等名簿

理事：15人、監事：2人、会計監査人：1名

(平成29年3月31日現在)

代表理事 理事長	山 根 庸 史	本田技研工業(株) 取締役 専務執行役員
副理事長	石 井 裕 晶	日産自動車(株) 理事 渉外担当役員
代表理事 研究所長	永 井 正 夫	
代表理事 専務理事	半 田 茂	
業務執行理事	竹 内 俊 作	
〃	堀 内 守 司	
〃	岩 野 浩	
〃	中 野 節	
理 事	天 野 肇	ITS Japan 専務理事
〃	石 井 直 生	トヨタ自動車(株) 渉外部 部長
	大 下 政 司	(一社)日本自動車部品工業会 副会長 専務理事
〃	鎌 田 実	東京大学 教授
	斎 藤 健一郎	JX リサーチ(株) 執行役員 エネルギー技術調査部長
〃	堀 洋 一	東京大学大学院 教授
〃	安 田 克 明	日産自動車(株) 渉外部 部長
常勤監事	緒 方 廣 己	
監 事	栃 尾 信 義	マツダ(株) 常勤監査役
会計監査人	有限責任監査法人 トーマツ	

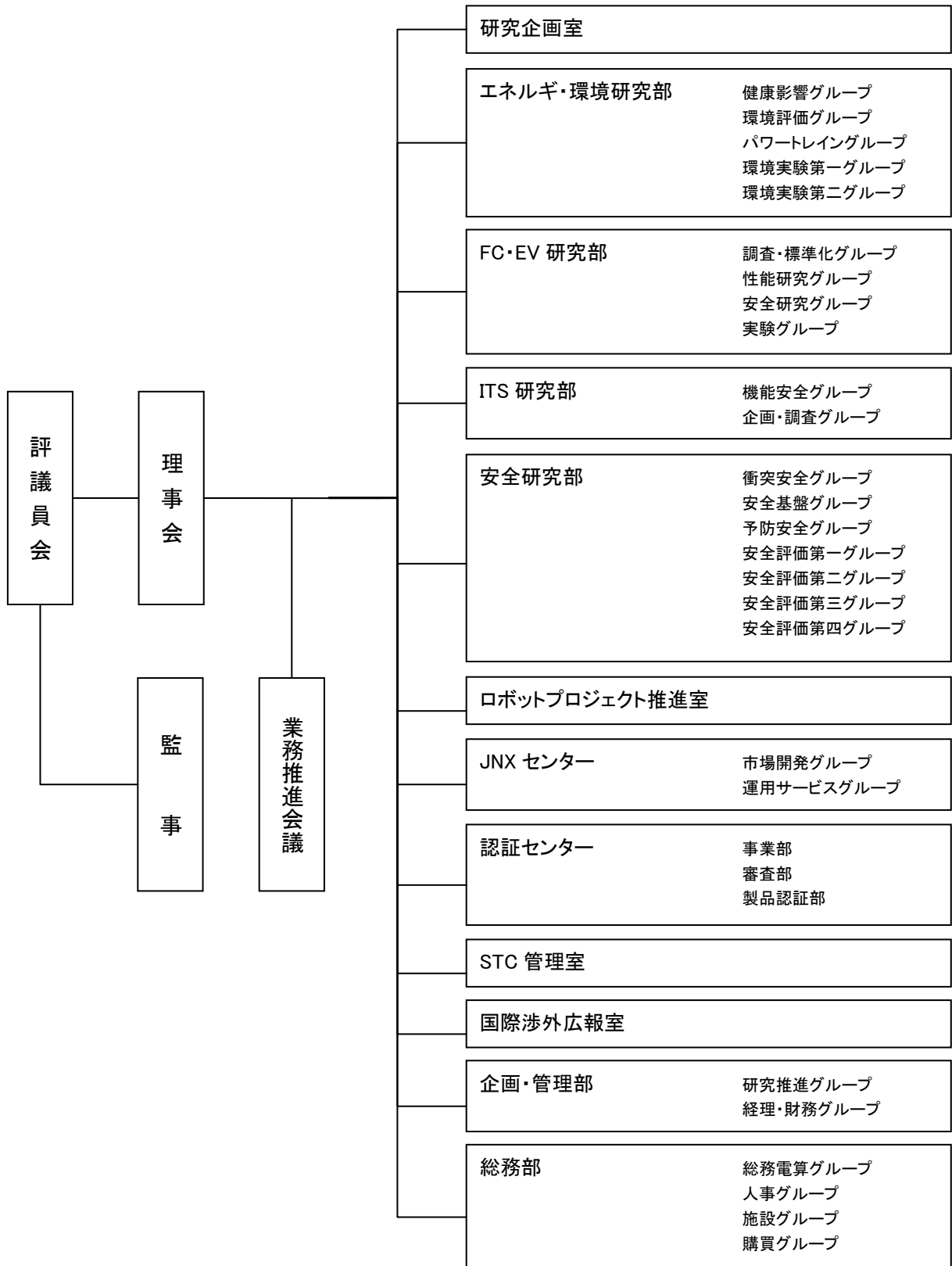
1.3 顧問名簿

顧問：13人

(平成29年3月31日現在)

井口雅一	(一財)日本自動車研究所 元副理事長・研究所長
池史彦	(一財)日本自動車研究所 前代表理事 理事長
岩崎正視	トヨタ自動車(株) 顧問
奥田碩	トヨタ自動車(株) 相談役
小枝至	日産自動車(株) 相談役
小林敏雄	(一財)日本自動車研究所 前代表理事 研究所長
志賀俊之	日産自動車(株) 取締役 副会長
鈴木孝男	三菱ふそうトラック・バス株式会社 相談役
張富士夫	トヨタ自動車(株) 名誉会長
富永孝雄	(一社)日本自動車工業会 顧問
豊田章男	トヨタ自動車(株) 代表取締役社長
豊田章一郎	トヨタ自動車(株) 名誉会長
名尾良泰	(一社)日本自動車工業会 顧問

1.4 組織図



1.5 評議員会、理事会の議事一覧

(1) 評議員会

- ◇ 平成 28 年度 定時評議員会（平成 28 年 6 月 13 日）
 - 第 1 号議案 平成 27 年度事業報告書（案）の件
 - 第 2 号議案 平成 27 年度決算報告書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 27 年度公益目的支出計画実施報告書の件
 - 第 4 号議案 平成 28 年度事業計画書の件
 - 第 5 号議案 平成 28 年度収支予算書の件
 - 第 6 号議案 遊休地売却の報告
 - 第 7 号議案 役員報酬（案）の件
 - 第 8 号議案 評議員選任の件
 - 第 9 号議案 役員選任の件
 - 第 10 号議案 会計監査人選任の件

- ◇ 平成 28 年度 臨時評議員会（平成 28 年 6 月 13 日）
 - 第 1 号議案 評議員会会長の選定の件

- ◇ 平成 28 年度 臨時評議員会（平成 28 年 9 月 21 日）
 - 第 1 号議案 評議員会運営規則の改訂の件
 - 第 2 号議案 評議員会副会長の選定の件
 - 第 3 号議案 理事選任の件
 - 第 4 号議案 資金運用管理規程及び平成 28 年度運用方針の報告
 - 第 5 号議案 資金運用状況の報告

- ◇ 平成 28 年度 臨時評議員会（平成 29 年 3 月 31 日）
 - 第 1 号議案 平成 28 年度運営状況の報告
 - 第 2 号議案 平成 29 年度事業計画書の報告
 - 第 3 号議案 平成 29 年度収支予算書の報告
 - 第 4 号議案 平成 29 年度資金運用方針の報告

(2) 理事会

- ◇ 平成 28 年度第 1 回理事会（通常）（平成 28 年 5 月 23 日）
 - 第 1 号議案 平成 27 年度事業報告書（案）の件
 - 第 2 号議案 平成 27 年度決算報告書（案）の件
 - 第 3 号議案 平成 27 年度公益目的支出計画実施報告書（案）の件
 - 第 4 号議案 役員等報酬（案）の件

- 第 5 号議案 評議員候補者の推薦の件
- 第 6 号議案 役員候補者の推薦の件
- 第 7 号議案 会計監査人候補者の推薦の件
- 第 8 号議案 資金運用管理規程（案）の制定及び平成 28 年度資金運用方針（案）の件
- 第 9 号議案 遊休地売却の件
- 第 10 号議案 平成 28 年度評議員会の開催及び議題の件

◇ 平成 28 年度第 2 回理事会（臨時）（平成 28 年 6 月 13 日）

- 第 1 号議案 代表理事及び業務執行理事の選定の件
- 第 2 号議案 理事長、副理事長、研究所長、専務理事、執行理事の選定の件
- 第 3 号議案 認証センター上級経営管理者の交替の件
- 第 4 号議案 認証センター運営委員会委員の交替の件
- 第 5 号議案 資金運用管理規程（案）の制定及び平成 28 年度資金運用方針（案）の件

◇ 平成 28 年度第 3 回理事会（臨時）（平成 28 年 7 月 28 日）

- 第 1 号議案 顧問委嘱の件
- 第 2 号議案 認証センター運営委員会委員の交替の件
- 第 3 号議案 資金運用管理規程（案）の制定及び平成 28 年度資金運用方針（案）の件
- 第 4 号議案 資金運用状況の報告

◇ 平成 28 年度第 4 回理事会（臨時）（平成 28 年 12 月 20 日）

- 第 1 号議案 遊休地の処分の件
- 第 2 号議案 業務執行状況の報告

◇ 平成 28 年度第 5 回理事会（通常）（平成 29 年 3 月 16 日）

- 第 1 号議案 平成 28 年度運営状況の報告
- 第 2 号議案 平成 29 年度事業計画書（案）の件
- 第 3 号議案 平成 29 年度収支予算書（案）の件
- 第 4 号議案 平成 29 年度資金運用方針（案）の件
- 第 5 号議案 認証センター運営委員会委員の交替の件
- 第 6 号議案 平成 28 年度臨時評議員会の開催及び議題の件

(3) 書面理事会

（一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 197 条において準用する第 96

条に基づく決議の省略)

◇ 理事会の決議があったものとみなされた日：平成 28 年 9 月 14 日

第 1 号議案 理事候補者の推薦の件

第 2 号議案 平成 28 年度臨時評議員会の開催及び議題の件

2.1 平成 28 年度研究事業一覧

課題数の総計：503

○実施事業（公益的な事業） 課題数：103

事業内容	研究分野	主な研究課題
基礎研究	環境・エネルギー (14 課題)	アジアの自動車 LCA における上流側のデータベース構築 オゾン曝露による生体反応における中枢神経系の役割の検討 最新の排出インベントリに関する基礎的研究 統合対策による CO2 削減効果推計
	安全 (13 課題)	後突時における女性の頸部傷害低減に関する研究 ドライバの覚醒度に応じた運転行動および車両挙動の検討 自動車衝突安全技術の応用研究 自転車事故防止に向けた運転支援策の構築およびその効果予測に関する研究
	IT・通信 (5 課題)	ITS 産業動向に関する調査研究 IT・CE 技術の ITS への適用に関する研究 自動走行システムの制御に関する要素技術の研究
総合研究	環境・エネルギー (19 課題)	平成 28 年度二輪車の排出ガス規制の強化に向けた国際動向調査業務 エアコンの燃費影響評価方法策定に関する調査 平成 28 年度省エネルギー設備導入等促進事業(エコドライブ普及推進事業) CNG 車普及に向けたインフラ構築を含む持続可能な環境整備・実証事業(インドネシア) 原因物質と酸化能の発生源同定に関する研究 平成 28 年度地域交通 CO2 排出量可視化技術の CO2 排出量モデルの観点からの調査研究 大気予測に関する研究(JATOP-III) 平成 28 年度二輪車の排出ガス規制の強化に向けた国際動向調査業務 実使用時燃費の確認のための調査(実路頻度調査) 水素ガス品質管理方法の国際標準化に関する研究開発
	安全 (42 課題)	自動車アセスメント情報提供業務に係る安全性能比較試験 交通事故鑑識官養成委託研修 自動車安全対策のマネジメントサイクルの推進に係る調査 ウェットグリップ性能の模擬試験 乗用車用タイヤの転がり抵抗試験 人体ダミーを用いた衝撃試験 フルラップ前面衝突試験及び側面衝突試験の試験方法改定に係る調査研究

		観光バスの安全対策に関する調査 二輪車用胸部保護具の保護性能等に関する実態調査 車線維持支援制御装置(LKAS)に係る試験・評価方法の調査研究 転倒による傷害耐性データに関する国際標準化 FCVの水素安全基準等の国際調和に関する研究開発
	IT・通信 (10 課題)	一般車両による自動バレーパーキングシステムの社会実装に向けた実証 運転行動データベースの構築技術の開発 交通事故低減詳細効果見積りのためのシミュレーション技術の開発及び実証 V2X 等車外情報の活用にかかるセキュリティ技術の研究・開発 自動走行システム基礎的要素技術国際標準化

○その他事業（公益的な事業を除く全ての事業） 課題数：400

事業内容	研究分野	主な研究課題	課題数
研究・試験	環境・エネルギー (147 課題)	大気環境、地球温暖化に関する研究・試験	30
		超クリーンディーゼル、NOx 低減、新燃料に関する研究・試験	11
		未規制物質に関する研究・試験	4
		排気ガスの健康影響に関する研究・試験	5
		EV、HEV、FCV に関する研究・試験	59
		道路交通騒音に関する研究・試験	10
		社会経済・アジア政策に関する調査・研究、その他	28
	安全 (235 課題)	乗員保護、歩行者保護に関する研究・試験	118
		交通事故分析、交通事故発生メカニズムに関する研究・試験	9
		材料/構造分析に関する研究・試験	36
運転者特性/ヒューマンインターフェースに関する研究・試験		12	
予防安全装置に関する研究・試験		4	
IT・通信 (18 課題)	自動車運動性能に関する研究・試験	45	
	高齢者対応に関する研究・試験	1	
	ロボットの安全性に関する研究・試験、その他	10	
	運転支援/自動運転システムに関する研究・試験	4	
		電気/電子・機能安全規格 ISO26262 に関する調査・研修	9
		EMC に関する研究・試験	5

2.2 平成 28 年度所外発表論文等一覧

(1) 論文 (32 件)

①国際発表

題名	発表先	発表者
<FC・EV分野>		
Adsorption behavior of low concentration carbon monoxide on polymer electrolyte fuel cell anodes for automotive applications	2016年6月 Journal of Power Sources, Vol.318, (2016)	Yoshiyuki Matsuda, Takahiro Shimizu (JARI), Shigenori Mitsushima (Yokohama National University)
Correlation between the Swelling Characteristic and Humidity Cycle Durability of a Polymer Electrolyte Membrane	2016年10月 ECS Transaction, 2016, Vol.75	Yoshiyuki Hashimasa, Hiroshi Daitoku, Tomoaki Numata, Yoshiyuki Matsuda (JARI)
Calendar Degradation Mechanism of Lithium Ion Batteries with a LiMn2O4 and LiNi0.5Co0.2Mn0.3O2 Blended Cathode	2017年1月 ECS Transaction, 2017, Vol.75	Keisuke Ando, Tomoyuki Matsuda, Masao Myojin, Daichi Imamura (JARI)
Characteristics of hydrogen leakage sound from a fuel-cell vehicle by hearing	2017年3月 International Journal of Hydrogen Energy, Vol.42	Kiyotaka Maeda, Yohsuke Tamura (JARI)
The possibility of an accidental scenario for marine transportation of fuel cell vehicle Hydrogen releases from TPRD by radiant heat from lower deck	2017年3月 International Journal of Hydrogen Energy, Vol.42	Yohsuke Tamura (JARI), Kenji Sato (Toho University)
Study of a post-fire verification method for the activation status of hydrogen cylinder pressure relief devices	2017年3月 International Journal of Hydrogen Energy, Vol.42	Koji Yamazaki, Yohsuke Tamura (JARI)
<環境・エネルギー分野>		
Laboratory testing of airborne brake wear particle emissions using a dynamometer system under urban city driving cycles	2016年4月 Atmospheric Environment, Vol.131	Hiroyuki Hagino, Motoaki Oyama, Sousuke Sasaki (JARI)
Laboratory evaluation of nanoparticle penetration efficiency in a cylindrical counter flow denuder for non-specific removal of trace gases	2016年11月 Aerosol Science and Technology, Vol.51	Hiroyuki Hagino (JARI)
<安全分野>		
Development of a Comprehensive Injury Criterion for Moderate and Mild Traumatic Brain Injuries	2016年4月 International Journal of Automotive Engineering, Vol.7	Jacobo Antona-Makoshi (JARI), Johan Davidsson (Chalmers University of Technology), Susumu Ejima, Koshiro Ono (JARI)
Effects of whole spine alignment patterns on neck responses in rear end impact	2016年8月 Traffic Injury Prevention, Vol.18	Fusako Sato (JARI), Mamiko Odani, Yusuke Miyazaki (Tokyo Institute of Technology), Kunio Yamazaki (JARI), Jonas Östh, Mats Svensson (Chalmers University of Technology)
A 50th percentile female occupant FE model with the average spinal alignment pattern for females	2016年9月 Association for the Advancement of Automotive Medicine, 2016	Fusako Sato, Kunio Yamazaki (JARI), Yusuke Miyazaki, Mamiko Odani (Tokyo Institute of Technology), Mats Svensson, Jonas Osth (Chalmers University of Technology)
Development of an Augmented Reality Vehicle for Driver Performance Evaluation	2017年1月 IEEE Intelligent Transportation Systems Magazine, Vol.9	Nobuyuki Uchida, Takashi Tagawa, Kenji Sato (JARI)
A female head-neck model for rear end impact simulations	2017年1月 Journal of Biomechanics, Vol.51	Jonas Osth (Chalmers University of Technology), Fusako Sato (JARI), Manuel Mendoza-Vazquez, Karin Brodin, Mats Y

		Svensson (Chalmers University of Technology), Astrid Linder (VTI)
--	--	---

②国内発表

題名	発表先	発表者
<環境・エネルギー分野>		
ディーゼルエンジン排気管内インジェクタから噴射される後処理用燃料噴霧の挙動(第1報)－異なる雰囲気条件における壁面衝突噴霧の挙動解析－	2016年9月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.5	浅川 野人, 酒谷 昇吾, 松村 恵理子 (同志社大), 北村 高明 (JARI), 植西 徹 (トヨタ自動車), 渡邊 哲也 (三菱自動車)
ディーゼルエンジン排気管内インジェクタから噴射される後処理用燃料噴霧の挙動(第2報)－スワールノズルにおける噴霧形成過程の数値解析－	2016年9月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.5	吉田 裕平, 田畑 弘隆, 松村 恵理子 (同志社大), 北村 高明 (JARI), 植西 徹 (トヨタ自動車), 渡邊 哲也 (三菱自動車)
Diesel Particulate Filter (DPF) 再生のためのポスト噴射に起因したオイル希釈メカニズムの解析	2016年11月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.6	松岡 正紘, 伊藤 貴之, 北村 高明 (JARI)
ディーゼル酸化触媒の諸元が HC 由来白煙の排出挙動に及ぼす影響	2016年11月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.6	松本 雅至, 北村 高明 (JARI)
三成分サロゲート燃料による市場軽油の噴霧燃焼シミュレーション	2016年11月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.6	渡辺 直樹, 栗本 直規, 星 真弥, 佐々木 寛 (デンソー), 松本 雅至 (JARI)
夏季環境条件におけるエアコン使用時の燃費推計方法に関する検証	2017年3月 自動車技術会論文集, Vol.48, No.2	羽二生 隆宏, 松浦 賢 (JARI)
ディーゼルエンジン排気管内インジェクタから噴射される後処理用燃料噴霧の挙動(第3報)－高温場における壁面衝突噴霧の蒸発特性－	2017年3月 自動車技術会論文集, Vol.48, No.2	酒谷 昇吾, 浅川 野人, 松村 恵理子 (同志社大), 北村 高明 (JARI), 植西 徹 (トヨタ自動車), 渡邊 哲也 (三菱自動車)
ディーゼルエンジン排気管内インジェクタから噴射される後処理用燃料噴霧の挙動(第4報)－低圧噴霧における壁面衝突の数値解析－	2017年3月 自動車技術会論文集, Vol.48, No.2	田畑 弘隆, 吉田 裕平, 松村 恵理子 (同志社大), 北村 高明 (JARI), 植西 徹 (トヨタ自動車), 渡邊 哲也 (三菱自動車)
尿素 SCR 用インジェクタから噴射される尿素水挙動および生成化合物の予測 - 高温流動場における尿素水噴霧の化学反応解析 -	2017年3月 自動車技術会論文集, Vol.48, No.2	酒谷 昇吾, 丹羽 晶大, 松村 恵理子 (同志社大), 北村 高明 (JARI), 今井 武人 (いすゞ自動車), 小野寺 仁 (日産自動車)
<安全分野>		
焦点化訓練が低学年児童の道路横断行動に及ぼす影響	2016年11月 応用心理学研究, 42巻, 2号	大谷 亮 (JARI)
幼児専用車シートの安全対策の効果検証	2016年11月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.6	石井 充, 鮎川 佳弘 (JARI), 高宮 智昭, 杉田 幸樹, 神谷 智英, 浅井 章 (日本自動車工業会)
歩行者検出等のための走行映像データベースにおける統計的性質の解析	2016年11月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.6	渡辺 顕司 (産業技術総合研究所), 野本 和則 (JARI), 加藤 晋 (産業技術総合研究所)
熟練ドライバおよび高齢ドライバの無信号交差点通過行動の分析－模擬市街路における実車実験データに基づいたシミュレーション－	2017年1月 自動車技術会論文集, Vol.48, No.1	佐藤 桂, 堤 成可, 杉本 匠 (東京農工大), 永井 正夫 (JARI)
運転技量差に着目した潜在的な歩行者飛び出しリスクに対する走行方法の分析	2017年3月 自動車技術会論文集, Vol.48, No.2	面田 雄一, 岩城 亮, 安部 原也, (JARI), 福島 正夫 (日本自動車工業会)
ヘッドレスト評価試験における頸部傷害低減性能基準の検討	2017年3月 自動車技術会論文集, Vol.48, No.2	中嶋 太一, 佐藤 房子, 張替 毅 (JARI)

<自動運転・IT・エレクトロニクス分野>		
無信号交差点における高齢ドライバーの運転行動の解析	2016年5月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.3	佐藤 桂, 竹中 邦夫 (東京農工大), 永井 正夫 (JARI)
自動運転状況下におけるドライバーへの情報伝達方法—低中度の自動運転システムからの情報伝達が運転行動に及ぼす影響—	2016年7月 自動車技術会論文集, Vol.47, No.4	大谷 亮, 江上 嘉典, 佐藤 健治 (JARI), 三井 一志, 阿部 正明 (日本自動車工業会)
高度自動運転における権限委譲方法の基礎的検討 (第2報) —運転以外の作業種類による比較—	2017年1月 自動車技術会論文集, Vol.48, No.1	本間 亮平, 若杉 貴志 (JARI), 小高 賢二 (日本自動車工業会)
<生活支援ロボット分野>		
ロボットによる轢過に起因した中足骨の骨折耐性の推定手法	2016年10月 日本ロボット学会誌, Vol.34, No.7	藤川 達夫 (JARI), 西本 哲也 (日本大), 浅野 陽一, 神保 浩之 (JARI)

(2) 学術講演 (84 件)

①国際発表

題 名	発表先	発表者
<FC・EV 分野>		
Influence of Carbon Monoxide on PEFC Performance under Load Cycle Operation	2016年6月 World Hydrogen Energy Conference(WHEC) 2016	Yoshiyuki Matsuda, Takahiro Shimizu, Yoshiyuki Hashimasa (JARI)
Discrimination of Short-Circuit Molten Marks on Steel Plates and Electrical Wiring in Determining Cause of Automobile Fires	2016年10月 Fire in vehicles 2016	Yohsuke Tamura (JARI)
Calendar Degradation Mechanism of Lithium Ion Batteries with a LiMn2O4 and LiNi0.5Co0.2Mn0.3O2 Blended Cathode	2016年10月 PRiME2016 (230th ECS Meeting)	Keisuke Ando, Tomoyuki Matsuda, Masao Myojin, Daichi Imamura (JARI)
Correlation between the Swelling Characteristics and Humidity Cycle Durability of a Polymer Electrolyte Membrane	2016年10月 PRiME2016 (230th ECS Meeting)	Yoshiyuki Hashimasa, Hiroshi Daitoku, Tomoaki Numata, Yoshiyuki Matsuda (JARI)
Studies on Alternative Test Method of Internal Short Circuit Tests for Lithium-ion Batteries in Vehicles	2016年10月 PRiME2016 (230th ECS Meeting)	Kiyotaka Maeda, Masashi Takahashi (JARI)
Effect of Carbon Monoxide on the Performance of Polymer Electrolyte Fuel Cells with a Hydrogen Circulation System	2016年10月 PRiME2016 (230th ECS Meeting)	Yoshiyuki Matsuda, Takahiro Shimizu, Yoshiyuki Hashimasa (JARI)
<環境・エネルギー分野>		
Laboratory testing of airborne brake wear particle emissions using a dynamometer system under urban city driving cycles	2016年6月 EuroBrake2016	Hiroyuki Hagino, Motoaki Oyama, Yoshio Tonegawa, Sasaki Sousuke (JARI)
Association between environmental noise and subjective symptoms related to cardiovascular diseases among elderly people: a Japanese population-based study	2016年6月 International Society of Environmental Epidemiology (ISEE) - Asia Chapter Conference 2016 ISEE-ISES AC2016	Kenichi Azuma (Kinki University), Hiroki Kishikawa (Mukogawa Women's University), Haruya Sakai, Tazuko Morikawa, Akiyoshi Ito, Tsuyoshi Ito, Hiroshi Koike (JARI), Masashi Ono (National Institute for Environmental Studies), Satoshi Nakai (Yokohama National University), Iwao Uchiyama (Louis Pasteur Center for Medical Research)
Long-term exposure to ambient air pollution and cardiovascular diseases among elderly people: a Japanese population-based study	2016年9月 International Society for Environmental	Kenichi Azuma (Kinki University), Haruya Sakai, Tazuko Morikawa, Akiyoshi Ito, Tsuyoshi Ito, Hiroshi Koike

	Epidemiology (ISEE) 2016	(JARI), Hiroki Kishikawa (Mukogawa Women's University), Masashi Ono (National Institute for Environmental Studies), Satoshi Nakai (Yokohama National University), Iwao Uchiyama (Louis Pasteur Center for Medical Research)
<安全分野>		
Driving Behavior Modelling for Avoidance of Road Crossing Pedestrians in Non-intersection Areas	2016年9月 AVEC'16	Hisashi Imanaga, Ryo Iwaki, Iori Yamaguchi, Nobuyuki Uchida (JARI)
Driving Behavior Modeling for Avoidance of Road Rushing out Pedestrians in Non-intersection Areas	2016年9月 AVEC'16	Hiroshi Yoshitake, Motoki Shino (University of Tokyo), Hisashi Imanaga, Nobuyuki Uchida (JARI)
Effect of seatbelt and airbag loads on thoracic injury risk in frontal crashes considering average and small body sizes and age - dependent thoracic fragility	2016年9月 IRCOBI (International Research Council on Biomechanics of Injury) Europe 2016 conference	Jacobo Antona - Makoshi, Yoshihiro Yamamoto, Ryosuke Kato, Shouhei Kunitomi, Atsuhiko Konosu (JARI), Yasuhiro Dokko, Tsuyoshi Yasuki, Tomoaki Takamiya (Japan Automobile Manufactures Association)
Development and Evaluation of the Advanced Pedestrian Legform Impactor Prototype which can be Applicable to All Types of Vehicles Regardless of Bumper Height - Part 1: Finite Element Model	2016年9月 IRCOBI (International Research Council on Biomechanics of Injury) Europe 2016 conference	Takahiro Isshiki, Atsuhiko Konosu (JARI), Yukou Takahashi (Japan Automobile Manufactures Association)
Development and Evaluation of the Advanced Pedestrian Legform Impactor Prototype which can be Applicable to All Types of Vehicles Regardless of Bumper Height - Part 2: Actual Test Tool -	2016年9月 IRCOBI (International Research Council on Biomechanics of Injury) Europe 2016 conference	Atsuhiko Konosu, Takahiro Isshiki (JARI), Yukou Takahashi (Japan Automobile Manufactures Association)
Investigation of Whole Spine Alignment Patterns in Automotive Seated Posture Using Upright Open MRI Systems	2016年9月 IRCOBI (International Research Council on Biomechanics of Injury) Europe 2016 conference	Fusako Sato (JARI), Mamiko Odani, Yusuke Miyazaki (Tokyo Institute of Technology), Taichi Nakajima, Jacobo Antona Makoshi, Kunio Yamazaki, Koshiro Ono (JARI), Mats Svensson, Jonas Östh (Chalmers University of Technology), Shigehiro Morikawa (Shiga University), Sylvia Schick (Ludwig - Maximilians - Universitaet Muenchen Institute of Legal Medicine), Antonio Ferreira Perez (Fundación de Investigación HM Hospitales)
Investigation of driving behaviour reflecting drivers' risk anticipation for pedestrian collision risk assessment of right-turns at intersections	2016年10月 HFES Europe 2016 Conference	Hiroshi Yoshitake, Motoki Shino (University of Tokyo), Hisashi Imanaga, Nobuyuki Uchida (JARI)
Visual behavior and vehicle fluctuation during in-vehicle tasks using head-up display and gesture input interfaces	2016年10月 23rd ITS World Congress	Hiroshi Uno (JARI), Ko Koga, Masaaki Abe (Japan Automobile Manufactures Association)
<自動運転・IT・エレクトロニクス分野>		
Human-Factors issues of transition from an automated driving system to manual driving	2016年10月 23rd ITS World Congress	Ryohei Homma, Takashi Wakasugi (JARI), Kenji Kodaka (Japan Automobile Manufactures Association)
Verification of the Detection of Raised Profile Line Markings by Millimeter-Wave Radar	2016年10月 23rd ITS World Congress	Kotaro Ishimoto, Masayuki Kishida, Wataru Hasegawa, Yuuichi Sugiyama (FUJITSU TEN), Hideo Nakamura (JARI)
Research on Severity Class Evaluation Based on Various Crash Situations Involved With	2016年11月 Small Engine Technology	Yuji Arai, Makoto Hasegawa, Takeshi Harigae (JARI)

Motorcycles For ISO 26262	Conference (SETC2016)	
Examination of Hazard Analysis and Risk Assessment and Exposure Research in the Real Traffic Situation of ISO 26262 for Motorcycles	2016年11月 Small Engine Technology Conference (SETC2016)	Makoto Hasegawa, Takanobu Kaneko (JARI)
Construction of an ISO 26262 C Class Evaluation Method for Motorcycles	2016年11月 Small Engine Technology Conference (SETC2016)	Maki Kawakoshi, Takashi Kobayashi, Makoto Hasegawa (JARI)

②国内発表

題名	発表先	発表者
<FC・EV分野>		
自動車用燃料電池 MEA の耐久性評価	2016年4月 第106回 SOFC 研究会	橋正 好行 (JARI)
自動車用燃料電池における水素中不純物の影響	2016年4月 第106回 SOFC 研究会	松田 佳之 (JARI)
Ex situ TEM 法による燃料電池電極触媒の構造変化観察	2016年6月 日本顕微鏡学会 第72回学術講演会	清水 貴弘, 今村 大地, 藤川 達夫 (JARI), 上野 武夫 (山梨大ナノ材料研究センター)
Development of a specimen holder for in operando TEM study of nanomaterials	2016年6月 日本顕微鏡学会 第72回学術講演会	Takeo Kamino (Vacuum Device Inc.), Toshie Yaguchi (Hitachi High Technologies Corp.), Takahiro Shimizu (JARI)
Capability of HT7700 analytical TEM in in operando study of nanomaterialsv	2016年6月 日本顕微鏡学会 第72回学術講演会	Toshie Yaguchi, Keiji Tamura, Yasuhira Nagakubo (Hitachi High-Technologies Corp.), Takeo Kamino (University of Yamanashi), Takahiro Shimizu (JARI)
自動車用 CFRP 複合容器の焼損後の残存強度	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	田村 陽介, 山崎 浩嗣, 前田 清隆 (JARI), 佐藤 研二 (東邦大)
燃料電池二輪車における水素漏洩検知の有効性	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	前田 清隆, 田村 陽介 (JARI)
水素ステーションでのノズル氷結現象の発生メカニズム解明に関する研究	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	山田 英助, 開 渉 (JARI)
燃料電池自動車の高圧水素容器の安全性検証に関する数値シミュレーション	2016年11月 オープン CAE シンポジウム 2016	山田 英助 (JARI)
オペランド TEM 観察による PEFC 触媒層評価法開発に向けた取り組み	2017年3月 電気化学会 第84回大会	清水 貴弘 (JARI), 矢口 紀恵 (日立ハイテクロジーズ), 上野 武夫 (山梨大燃料電池ナノ材料研究センター)
<環境・エネルギー分野>		
バーナー式スート発生器を用いたディーゼルパーティキュレートフィルタの評価	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会	青木 寿夫 (JARI), 植西 徹 (早稲田大), 北村 高明, 土屋 賢次 (JARI), 福間 隆雄, 草鹿 仁 (早稲田大)
DPF 再生のためのポスト噴射に起因したオイル希釈メカニズムの解析	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会	松岡 正紘, 北村 高明, 伊藤 貴之 (JARI)
ディーゼル酸化触媒の諸元が HC 由来白煙の排出挙動に及ぼす影響	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会	松本 雅至, 北村 高明 (JARI)
ディーゼルエンジン後処理用排気管内インジェクタから噴射される噴霧挙動解析(第3報)	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会	酒谷 昇吾, 浅川 野人, 松村 恵理子 (同志社大), 北村 高明 (JARI), 植西 徹 (トヨタ自動車), 渡邊 哲也 (三菱自動車)
ディーゼルエンジン排気管内インジェクタから噴射される噴霧挙動解析(第4報)	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会	田畑 弘隆, 吉田 裕平, 松村 恵理子 (同志社大), 北村 高明 (JARI), 植西 徹 (トヨタ)

	大会	自動車), 渡邊 哲也 (三菱自動車)
三成分サロゲート燃料による市場軽油の噴霧燃焼シミュレーション	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会	渡辺 直樹, 栗本 直規, 星 真弥, 佐々木 覚 (デンソー), 松本 雅至 (JARI)
微小粒子PM2.5の胎仔期曝露による出生仔免疫系への影響解析	2016年8月 衛生薬学・環境トキシコロジー講演	吉田 成一 (大分県看科大), 村木 直美, 伊藤剛 (JARI), 嵐谷 奎一 (産業医大), 市瀬 孝道 (大分県看科大)
気液界面培養下の細胞へのガスおよび微小粒子状物質曝露の影響評価法—NO2曝露による気道上皮細胞の遺伝子発現解析—	2016年9月 第57回大気環境学会年会	伊藤剛, 村木直美, 田村久美子 (JARI), 佐々木左宇介 (石油エネルギー技術センター), 石井 幸雄 (筑波大), 酒井 康行 (東京大学), 渡邊 肇 (大阪大), 高野裕久(京都大)
大気モデル WRF/CMAQ を用いた関東圏におけるPM2.5 圏外流入分/圏内生成成分解析	2016年9月 第57回大気環境学会年会	木村 真, 森川 多津子, 伊藤 晃佳 (JARI)
大気汚染物質の曝露と虚血性心疾患の関連性の断面調査:2種類の大気拡散モデルを用いた大気曝露評価	2016年9月 第57回大気環境学会年会	堺 温哉 (JARI)
東京都都市部の高齢者における大気汚染物質と騒音の曝露と虚血性心疾患との関連性の断面調査	2016年9月 第57回大気環境学会年会	堺 温哉 (JARI)
LC/IRMSによる糖, アミノ酸, カフェインの炭素安定同位体比測定法の改良	2016年9月 日本分析化学会第65年会	須藤 菜那 (JARI), 川島洋人 (秋田県立大)
都内沿道における粒子状物質中成分の継続観測と炭素成分ごとの放射性炭素同位体同位体分析	2016年9月 第57回大気環境学会年会	萩野 浩之, 森川 多津子, 伊藤 晃佳 (JARI)
ヒト気道上皮細胞におけるトルエンおよびキシレン由来二次生成粒子曝露の影響	2016年9月 第57回大気環境学会年会	細谷 純一, 萩野 浩之, 伊藤 剛 (JARI)
微小粒子PM2.5の胎仔期曝露による雄性出生仔の生殖機能への影響発現メカニズムの解析	2016年9月 第57回大気環境学会年会	吉田 成一 (大分県看護科学大), 村木 直美, 伊藤 剛 (JARI), 嵐谷 奎一(産業医科大), 市瀬 孝道(大分県看護科学大)
中長期を対象とした次世代車普及率の推計手法開発	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	金成 修一 (JARI)
夏季環境条件におけるエアコン使用時の燃費推計方法に関する研究	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	羽二生 隆宏, 松浦 賢 (JARI)
尿素 SCR 用インジェクタから噴射される尿素水挙動および生成化合物の予測(第1報)	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	酒谷 昇吾, 丹羽 晶大, 松村 恵理子 (同志社大), 北村 高明 (JARI), 今井 武人 (いすゞ自動車), 小野寺 仁 (日産自動車)
自動車用ディーゼルエンジン油の燃費試験方法の開発	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	吉田 悟 (JX エネルギー), 富澤 憲次 (日野自動車), 田谷 隆裕 (コスモ石油ブリカンツ), 中村 洋一郎, 端本 健, 橋本 隆, 佐藤 元重 (日野自動車), 高橋 朋応, 高島 厚博 (三菱ふそうトラック・バス), 山守 一雄, 平野 聡伺, 山下 実 (トヨタ自動車), 鐘 恵介 (UDトラック), 森内 敬久, 荒井 康 (日立建機), 中條 智哉, 松浦 賢 (JARI), 赤松 篤 (-)
オゾン曝露による交感神経活動への影響の検討	2016年11月 第69回 日本自律神経学会総会	田中 睦美 (JARI)
騒音曝露と虚血性心疾患の関連に関する研究 —東京都葛飾区の高齢者を対象とした疫学調査—	2016年12月 日本リスク研究学会 第29回 年次大会	岸川洋紀 (武庫川女子大), 小池 博, 堺 温哉, 森川 多津子, 富田 幸佳, 伊藤 晃佳, 伊藤 剛 (JARI), 中井里史 (横浜国立大), 小野雅司 (独立行政法人国立環境研究所), 東 賢一 (近畿大), 内山巖雄 (京都大)
住環境における騒音と高齢者の循環器疾患関連症状との関係に関する全国規模の調査研究	2017年3月 第87回 日本衛生学会総会	東 賢一 (近畿大), 岸川 洋紀 (武庫川女子大), 堺 温哉, 森川 多津子, 伊藤 晃佳, 伊藤 剛, 小池 博, (JARI) 小野 雅司 (国立環境研究所), 中井 里史 (横浜国立大), 内山 巖雄 (財団法人レイ・パストゥール医学研究センター)

<安全分野>		
歩行者検出等のための走行映像データベースにおける統計的性質の解析	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会	渡辺 颯司 (産業技術総合研究所), 野本 和則 (JARI), 加藤 晋 (産業技術総合研究所)
道路横断時の確認行動に見られる学年差・学習状況下の観察調査に基づく検討	2016年6月 日本交通心理学会第81回大会	大谷 亮, 橋本 博, 小林 隆, 藤田 和男, 岡田 和未, 岡野 玲子 (JARI)
緑内障患者のドライビングシミュレーションによる運転特性	2016年9月 第27回 日本緑内障学会	鈴木 弘隆 (すずむら眼科), 植田 俊彦 (二本松眼科), 佐藤 健治, 内田 信行, 安倍 原也 (JARI), 宇多 重員 (二本松眼科)
高齢と非高齢の違いによる視認行動への影響	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	安部 原也, 佐藤 健治, 内田 信行 (JARI), 福島 正夫 (日本自動車工業会)
幼児専用車への装備を想定したシートベルトの使用性調査	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	石井 充, 鮎川 佳弘 (JARI), 林 猛人, 杉田 幸樹, 神谷 智英, 新美 敏春 (日本自動車工業会)
駐車車両陰からの歩行者飛び出しが予想されるシーンにおける運転行動分析(第2報)・歩行者飛び出し前の運転行動の違いが飛び出し後の回避パフォーマンスに与える影響のモデル化	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	今長 久, 岩城 亮, 内田 信行 (JARI)
駐車車両陰からの歩行者飛び出しが予想されるシーンにおける運転行動分析(第1報)・歩行者飛び出し前の運転行動の違いと飛び出し後の回避パフォーマンスの関係性分析	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	岩城 亮, 今長 久, 内田 信行 (JARI)
ディストラクション評価方法としての運転シミュレータによる視認行動測定法の妥当性検討	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	宇野 宏 (JARI), 古賀 光, 阿部 正明 (日本自動車工業会)
運転技量差に着目した潜在的な歩行者飛び出しリスクに対する走行方法の分析	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	面田 雄一, 岩城 亮, 安部 原也 (JARI), 福島 正夫 (日本自動車工業会)
夜間歩行者事故発生地点における照度調査	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	鈴木 崇, 若杉 貴志 (JARI), 加藤 昌彦, 藤田 浩一 (トヨタ自動車)
ヘッドレスト評価試験における頸部傷害低減性能基準の検討	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	中嶋 太一, 佐藤 房子, 張替 毅 (JARI)
一時停止規制のある交差点における高齢運転者を対象とした運転支援の効果と受容性の検討	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	細川 崇, 橋本 博 (JARI), 平松 真知子, 寸田 剛司, 吉田 傑 (日本自動車工業会)
自転車との出会い頭事故対策に向けたヒヤリハットデータベース活用方法の検討	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	堤 成可, 佐藤 桂, 毛利 宏 (東京農工大), 永井 正夫 (JARI)
ドライバの交通環境変化に対する先読みを考慮した交差点右折時の歩行者衝突リスク評価手法の研究(第2報)・歩行者衝突リスクに影響を及ぼすドライバの視行動の特徴	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	吉武 宏, 小竹 元基 (東京大), 今長 久, 内田 信行 (JARI)
大型トラックへのもぐり込み事故時の乗用車速度推定	2016年11月 日本法科学技術学会 第22回学術集会	鮎川 佳弘, 福山 慶介, 三上 耕司 (JARI)
歩行者事故における車両前面形状が歩行者の飛翔方向に及ぼす影響	2016年11月 日本法科学技術学会 第22回学術集会	福山 慶介, 加藤 良祐, 鮎川 佳弘, 三上 耕司 (JARI), 本宮 嘉弘 (新潟県警)
載型映像記録装置で撮影された映像からの俯瞰映像の作成	2016年11月 日本法科学技術学会 第22回学術集会	鈴木 健一郎, 須能 梓 (茨城県警), 福山 慶介, 鮎川 佳弘, 三上 耕司 (JARI)
歩行者が斜め前方に跳ね飛ばされた場合の速度推定法	2016年11月 日本法科学技術学会 第22回学術集会	本宮 嘉弘 (新潟県警), 福山 慶介, 鮎川 佳弘, 三上 耕司 (JARI)

	回 学術集会	
乗車姿勢における脊柱アライメントの男女差が後突事故時の脊柱挙動に及ぼす影響	2017年1月 日本機械学会 第29回バイオエンジニアリング講演会	佐藤 房子 (JAR), 宮崎祐介 (東京工業大), Jonas Osth, Mats Svensson (Chalmers University of Technology)
<自動運転・IT・エレクトロニクス分野>		
自動運転における権限移譲方法の基礎的検討(第2報)	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会	本間 亮平, 若杉 貴志 (JAR), 小高 賢二 (日本自動車工業会)
自動運転システムの機械の能力限界時におけるドライバ運転行動	2016年6月 電子情報通信学会 安全性研究会	安部 原也, 佐藤 健治, 内田 信行 (JAR), 伊藤 誠 (筑波大)
大型車の高速道自動走行時のスムーズな権限委譲方法に関する研究	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	北島 創, 安部 原也 (JAR), 田村 寿乃, 金 海燕, 高橋 亘 (いすゞ中央研究所)
自動運転における権限委譲方法の基礎的検討(第3報) -報知方法とドライバの対応行動-	2016年10月 自動車技術会 2016年秋季大会	本間 亮平, 若杉 貴志 (JAR), 小高 賢二 (日本自動車工業会)
自動運転システムの能力限界時におけるドライバ運転行動	2016年11月 第25回交通・物流部門大会 (TRANSLOG2016)	安部 原也, 佐藤 健治, 内田 信行 (JAR), 伊藤 誠 (筑波大)
自動走行システムによる事故低減詳細効果を評価するためのシミュレーション技術の開発	2016年11月 第25回交通・物流部門大会 (TRANSLOG2016)	北島 創, 岩城 亮, 面田 雄一, 内田 信行, 鷹取 収, 大田 浩之, 安達 章人 (JAR)
自動走行システムによる事故低減詳細効果を評価するためのシミュレーション技術の開発 - 追従・追突場面の効果評価のためのシミュレーション機能の実装 -	2016年12月 計測自動制御学会システム・情報部門学術講演会 SSI2016	北島 創, 岩城 亮, 面田 雄一, 内田 信行, 鷹取 収, 大田 浩之, 安達 章人 (JAR)
<生活支援ロボット分野>		
ロボット介護機器の実証試験に必須な機械としての安全性確保方策の検証	2016年9月 第34回日本ロボット学会学術講演会	浅野 陽一, 藤川 達夫 (JAR)
ロボット介護機器のリスクアセスメントのための高齢者の転倒時死亡確率および骨折確率の推定	2016年9月 第34回日本ロボット学会学術講演会	松本 光司, 藤川 達夫, 浅野 陽一 (JAR)
轢過による中足骨の骨折耐性評価	2016年11月 日本機械学会 シンポジウム: スポーツ工学・ヒューマンダイナミクス 2016	杉浦 隆次, 西本 哲也 (日本大), 西形 理絵 (福島医大), 藤川 達夫 (JAR), 鈴木 光 (日本大)
皮膚・軟組織の衝撃傷害特性	2017年1月 日本機械学会 第29回バイオエンジニアリング講演会	杉浦隆次, 西本 哲也 (日本大), 西形 理絵 (福島医大), 藤川 達夫 (JAR)

(3) ポスター発表 (19件)

①国際発表

題名	発表先	発表者
<FC・EV分野>		
Degradation Factor Analysis of Cycle and Calendar aging of a Li-ion Battery with Mixed Cathode LiMn2O4/LiNi0.5Co0.2Mn0.3O2 and Graphite Anode	2017年1月 AABC(Advanced Automotive Battery Conference) Europe 2017	Daichi Imamura, Keisuke Ando, Tomoyuki Matsuda (JAR)
Verification of cycle life test method of lithium-ion battery for electric vehicles	2017年1月 AABC(Advanced	Tomoyuki Matsuda, Keisuke Ando, Masao Myojina, Daichi Imamura (JAR)

	Automotive Battery Conference) Europe 2017	
<環境・エネルギー分野>		
Trace Multi-Elements Detection for Aerosol Particles by using Inductively Coupled Plasma Time-of-Flight Mass Spectrometer	2016年8月 International Mass Spectrometry Conference (IMSC 2016)	Hiroyuki Hagino (JARI), Martin Tanner, Olga Borovinskaya (TofWerk), Toshihide Hikida, Akio Shimono (Shoreline Science Research,)
Long-term exposure to ambient air pollution and ischemic heart disease among elderly residents of Tokyo metropolitan area, Japan	2016年10月 2016 Annual International Society of Exposure Science (ISES) Meeting	Haruya Sakai, Tazuko Morikawa, Yukika Toda, Tsuyoshi Ito, Akiyoshi Ito, Hiroshi Koike (JARI), Masashi Ono (National Institute for Environmental Studies), Kenichi Azuma (Kinki University), Satoshi Nakai (Yokohama National University), Iwao Uchiyama (Louis Pasteur Center for Medical Research)
<自動運転・IT・エレクトロニクス分野>		
Assessing drivers' performance when limits of system function occur for automated driving	2016年7月 the 31st International Congress of Psychology (ICP)	Genya Abe, Kenji Sato, Nobuyuki Uchida (JARI), Makoto Ito (Tsukuba University)
Drivers' response to abrupt and gradual automated driving failure	2016年10月 HFES Euro Chapter Annual Conference	Genya Abe, Kenji Sato, Nobuyuki Uchida (JARI), Makoto Ito (Tsukuba University), Dick de Waard (University of Groningen)

②国内発表

題名	発表先	発表者
<環境・エネルギー分野>		
光化学スモッグチャンバーシステムの構築と性能評価	2016年9月 第57回 大気環境学会年会	内田 里沙, 萩野 浩之 (JARI)
ロープレッシャーインパクター捕集による大気粒子中の多環芳香族炭化水素類の粒径分布と経年変化 (2007-2015)	2016年9月 第57回 大気環境学会年会	柏倉 桐子, 浅野 幸子, 森川 多津子, 伊藤 晃佳 (JARI)
大気中浮遊粒子における変異原性と PAH, NPAH 濃度の調査	2016年9月 第57回 大気環境学会年会	柏倉 桐子, 田中 恵子, 森川 多津子, 伊藤 晃佳 (JARI), 鳥羽 陽 (金沢大), 鈴木 元気 (信州大附属病院), 早川 和一 (金沢大)
ガソリン車から排出される粒子中の炭素成分	2016年9月 第57回 大気環境学会年会	柏倉 桐子, 中山 明美 (JARI), 佐々木 左宇介 (石油エネルギー技術センター), 伊藤 晃佳 (JARI)
光化学スモッグチャンバーを用いたガソリン燃料蒸発ガスによる二次粒子生成能の評価	2016年9月 第57回 大気環境学会年会	萩野 浩之, 内田 里沙 (JARI)
最新の誘導結合プラズマ飛行時間型質量分析計 (icpTOF) による標準溶液の分析	2016年9月 日本分析化学会第65年会	萩野 浩之 (JARI), Martin Tanner, Olga Borovinskaya (TofWerk), 疋田 利秀, 下野 彰夫 (汀線科学研究所)
アンモニア排出インベントリの構築について	2016年9月 第57回 大気環境学会年会	森川 多津子 (JARI)
燃料蒸発ガス対策と光化学オキシダントへの影響評価	2016年9月 第57回 大気環境学会年会	森川 多津子, 木村 真, 伊藤 晃佳 (JARI)
オゾン曝露に対する交感神経反応	2017年3月 第94回 日本生理学会大会	田中 睦美 (JARI)
<安全分野>		
駐車車両陰から歩行者飛び出しが予想される状況における運転行動分析	2016年12月 計測自動制御学会 システム・	今長 久, 岩城 亮, 内田 信行 (JARI)

	情報部門学術講演会 SSI2016	
自動車横転事故の解析	2017年2月 第35回 筑波脳神経外科研究 会学術集会	高橋 利英, 九島愛樹 (筑波大), 上村和也, 河野 元嗣 (つくばメディカルセンター病院), 三上 耕司 (JARI), 中居 康展, 中尾 準三 (つくばメディカルセンター病院), 小野古志郎 (JARI), 柴田 智行 (きぬ医師会病院), 山本 哲哉, 松村 明 (筑波大)
<自動運転・IT・エレクトロニクス分野>		
自動走行システムの高度化と早期普及を促進するための テストコースの整備	2016年11月 第25回交通・物流部門大会 (TRANSLOG2016)	北島 創, 山口 直紀, 高山 晋一, 内田 信 行, 鷹取 収, 山崎 邦夫 (JARI)
自動運転中のハンドル保持の有無による機械の能力 限界における運転行動への影響	2016年12月 計測自動制御学会 システム・ 情報部門学術講演会 SSI2016	安部 原也, 佐藤 健治, 内田 信行 (JARI), 伊藤 誠(筑波大)

(4) 学術誌の解説・総説記事 (10件)

①国内発表

題名	発表先	発表者
<FC・EV分野>		
ハイブリッド車・電気自動車・燃料電池車(年鑑)	2016年9月 自動車技術会「自動車技術」, Vol.70, No.9	島村 和樹, 矢野 勝, 黒川 陽弘, 前田 清 隆, 田村 浩明 (JARI)
<環境・エネルギー分野>		
大気汚染物質と騒音の健康影響	2016年10月 2016年度版「自動車交通研 究:環境と政策」	堺 温哉 (JARI)
自動車騒音の計測施設	2016年12月 日本音響学会誌	伊藤 晃佳 (JARI)
<安全分野>		
今後の交通安全政策への活用を意図した交通事故費 用推計のあり方の検討	2017年1月 日交研シリーズA 報告書「今 後の交通安全対策への活用を 意図した交通事故費用推計の あり方の検討」	鹿島 茂 (中央大), 今長 久 (JARI)
路側センサを用いた右折時衝突防止支援システムの 効果評価 (自動運転に向けたセンサと制御)	2017年2月 自動車技術会「自動車技術」, Vol.71, No.2	菅沼 英明 (トヨタ自動車), 中村 俊祐 (総務 省), 菊地 一範, 本間 亮平 (JARI)
<自動運転・IT・エレクトロニクス分野>		
車両運動制御の最新技術動向と今後の展望 (走りを創 る先端技術)	2016年12月 自動車技術会「自動車技術」, Vol.70, No.12	山門 誠, 安部 正人 (神奈川工科大), 永井 正夫 (JARI), 芝端 康二 (神奈川工科大), 山本 真規 (トヨタ自動車), 堀内 伸一郎(日 本大), 吉岡 透 (マツダ)
自動運転がもたらす未来社会 (座談会)	2017年1月 自動車技術会「自動車技術」, Vol.71, No.1	永井 正夫 (JARI), 太田 勝敏 (東京大), 谷口 恒 (ZMP), 菅沼 直樹(金沢大), 松本 泰 (セコム)
自動運転に向けた周辺環境認識技術の研究開発 (自 動運転に向けたセンサと制御)	2017年2月 自動車技術会「自動車技術」, Vol.71, No.2	中村 英夫, 後呂 考亮 (JARI)

<生活支援ロボット分野>		
実証試験のための必須安全検証	2016年5月 日本ロボット学会誌, Vol.34	藤川 達夫, 浅野 陽一 (JARI)
ロボット介護機器の安全検証	2016年10月 計測と制御, 第55巻, 第10号	藤川 達夫, 浅野 陽一 (JARI)

(5) その他の発表(話題提供、セミナー講演、情報誌記事等) (23件)

①国際発表

題名	発表先	発表者
<FC・EV分野>		
Hydrogen fueled vehicle global technical regulation (GTR13) and harmonization in Japan	2016年11月 1st International Fuel Cell Vehicle Congress	Ikuya, Yamashita (JARI Safety Standards WG)

②国内発表

題名	発表先	発表者
<FC・EV分野>		
水素・燃料電池自動車の緊急対応について	2016年5月 全国消防長会警防防災委員会	田村 陽介 (JARI), 山下 郁也 (日本自動車工業会)
水素・燃料電池自動車の安全利用に関わる最近の取り組み	2016年8月 水素の燃焼と爆発ワークショップ	田村 陽介, 山田 英助, 前田 清隆, 山崎 浩嗣 (JARI)
燃料電池自動車の安全・安心に関わる JARI の取り組み	2016年8月 「次世代電動車両開発コンソーシアム」第1回講演会	田村 陽介 (JARI)
燃料電池自動車の普及への取り組み	2016年9月 平成28年度第1回国際計量研究連絡委員会	赤井 泉明 (JARI)
水素・燃料電池自動車の消火・救助および事故後処理の対応	2016年11月 日本火災学会火災科学セミナー	田村 陽介 (JARI)
日本自動車研究所(JARI)の取り組み紹介	2016年12月 いばらき水素利用シンポジウム in 神栖	赤井 泉明 (JARI)
海外学会の燃料電池関連の発表紹介「2016 DOE hydrogen and fuel Program Annual Merit Review」	2016年12月 燃料電池研究会 第134回セミナー	清水 貴弘 (JARI)
水素自動車における火災安全性	2017年1月 平成28年度日本火災学会講演討論会	田村 陽介 (JARI)
<環境・エネルギー分野>		
PEMS(車載式排出ガス分析計)の紹介とその課題	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会フォーラム	相馬 誠一 (JARI)
PM2.5成分観測結果と大気シミュレーションによる発生源寄与解析	2016年5月 自動車技術会 2016年春季大会フォーラム	森川 多津子, 木村 真 (JARI)

PEMS(車載式排出ガス分析計)の紹介とその課題	2016年6月 燃料潤滑油部門委員会 第2 回部門委員会での話題提供	相馬 誠一 (JARI)
PM2.5 排出インベントリの最新状況と課題	2016年6月 大気環境学会関東支部講演 会	森川 多津子 (JARI)
ブレーキ粉じんの発生機構と物理・化学性状の分析	2016年11月 大気環境学会自動車環境分 科会セミナー	萩野 浩之 (JARI)
若手ポスター賞「光化学スモッグチャンバーシステムの 構築と性能評価」	2016年11月 大気環境学会誌, 第51巻, 第6号	内田 里沙 (JARI)
PM2.5 低減に向けた自動車環境対策～ガソリン蒸発 ガスの実態と低減策について～	2017年2月 平成28年度大気環境対策セ ミナー ～PM2.5の現状と今 後の展望について～	森川 多津子 (JARI)
JARI 疫学研究における 大気と騒音の曝露推計手法	2017年3月 自動車技術会 第12回大気 環境技術・評価部門委員会	堺 温哉, 森川 多津子, 小池 博, 伊藤 晃 佳, 伊藤 剛 (JARI)
<自動運転・IT・エレクトロニクス分野>		
クルマの自動運転技術の開発動向と実用化に向けた 課題	2016年5月 関西空港調査会第433回定 例会	安達 章人 (JARI)
自動運転技術開発における JARI の取組み	2016年5月 自動車技術会 2016年春季 大会フォーラム	中村 英夫 (JARI)
自動運転技術の開発動向と課題 ～開発・製造者と社 会のギャップ～	2016年10月 第4回 タイムズレスキューパ ートナー企業 経営者ミーティ ング	中村 英夫 (JARI)
つながるクルマに向けた車両インタフェースの標準化 - ISO 等の動向	2017年2月 TTC セミナー「つながるクルマ の時代における標準化動向」	伊藤 寛 (JARI)
V2X のメッセージ検証簡略化方式(その1)「V2X 通信 のメッセージ検証簡略化方式に関する評価」	2017年3月 第37回情報通信システムセキ ュリティ研究会	三澤 学, 丹治 雅道, 植田 武道, 小林信博, 西山博仁 (三菱電機), 大庭 敦 (JARI)
V2X のメッセージ検証簡略化方式(その2)「V2X 通信 のメッセージ検証の簡略化方式の提案」	2017年3月 第37回情報通信システムセキ ュリティ研究会	三澤 学, 丹治 雅道, 植田 武道, 小林信博, 西山博仁 (三菱電機), 大庭 敦 (JARI)

2.3 平成 28 年度 学会等表彰の受賞者一覧

表彰名	受賞者	表彰対象
平成 28 年度国際標準化貢献者表彰	藤川 達夫	ロボットの安全性に関する国際標準化への貢献
日本機械学会交通・物流部門 第 25 回 交通・物流部門大会 (TRANSLOG2016) 優秀講演論文賞	北島 創	自動走行システムによる事故低減詳細 効果を評価するための シミュレーシ ョン技術の開発
SAE/JSAE SETC2016 「Best Paper Award Runners Up」	新井 勇司	Research on Severity Class Evaluation Based on Various Crash Situations Involved with Motorcycles for ISO 26262

2.4 平成 28 年度 産業財産権登録一覧

登録番号	発明者	発明の名称
該当なし		

3.1 平成 28 年度テストコース外部利用者使用状況

(単位:千円)

使用区分		実績
業 種 別	国内自動車(二輪・四輪)関係	463,867
	海外自動車関係	2,435
	車体関係	76,271
	部品関係	83,963
	タイヤ関係	56,396
	その他	47,463
	合 計	730,395
テ ス ト コ ー ス 別	高速周回路	280,986
	総合試験路	125,804
	その他	323,604
	合 計	730,395

4.1 平成 28 年度技術刊行物一覧

区 分	題 名	発行年月
報告書	ITS 産業動向に関する調査研究報告書 －ITS 産業の最前線と市場予測 2016－	平成 28 年 7 月
年 報	日本自動車研究所 2015 年度 年報	平成 28 年 8 月
年 報	2015 年度 JARI 研究論文集	平成 28 年 8 月
所 報	JARI Research Journal 2016 年 4 月～2017 年 3 月 (研究速報、技術資料など 37 編を JARI ウェブサイトに掲載)	平成 28 年 4 月～ 平成 29 年 3 月

4.2 平成 28 年度蔵書、資料保有状況

区 分	取得件数	累 計
単行本(和書)	170 冊	13,420 冊
単行本(洋書)	15 冊	2,290 冊
国内雑誌	24 誌	—
外国雑誌	4 誌	—
報告書等	178 点	31,415 点

4.3 平成 28 年度主要な研究設備、機器の導入、更新一覧

件名	主な内容
自動走行システム評価拠点	<ul style="list-style-type: none"> ・特異環境試験場 雨発生装置、霧発生装置、日射装置 ・V2X市街地 インフラ協調型安全運転支援システム(DSSS)、グリーンウェーブ走行支援システム ・多目的市街地 信号移設、ランアバウト再現可能
エンジンダイナモベンチ	<ul style="list-style-type: none"> ・過渡耐久エンジンベンチシステムの導入 エンジンベンチ 1基(吸収容量 300kW) エンジン熱交換装置 1基 エンジン吸気ユニット 1基 排出ガス直接分析計 2台

4.4 平成 28 年度主要な工事等整備一覧

件名	主な内容
エンジン棟空調設備更新	<p>更新台数:10 台</p> <p>冷媒ガス R-410 及び R-32 を採用。(従来の R-22 は 2020 年に製造中止となるため、新冷媒に切り替えを進めている)</p>
2 号エンジン棟変電設備更新	<p>工事内容:老朽化した受変電設備の更新</p> <p>電源規模:動力電源 550kVA</p> <p style="padding-left: 40px;">電灯電源 150kVA</p>
電話交換機等設備更新	<p>工事内容:電話交換機本体 1 台</p> <p style="padding-left: 40px;">電源装置(停電保障機能付き) 一式</p>